

# LaTeX によるインタラクショナル論文作成のガイド (インタラクティブ発表, ポスター発表)

志 築 文 太 郎<sup>†</sup> 河 野 恭 之<sup>††</sup>, 角 康 之<sup>†††</sup>

## How to Typeset Your Papers in LaTeX (Interactive/Poster Session)

BUNTAROU SHIZUKI,<sup>†</sup> YASUYUKI KONO<sup>††</sup> and YASUYUKI SUMI<sup>†††</sup>

### 1. はじめに

このパンフレットは, インタラクショナルシンポジウムのインタラクティブ発表とポスター発表に投稿する予稿, 並びに掲載が決定した予稿の最終版を, 日本語 LaTeX を用いて作成し提出するためのガイドである.

### 2. 予稿の作成方法

「インタラクショナル論文投稿用 LaTeX スタイルファイル」の使用法に従って予稿を作成すれば良い。「インタラクショナル論文投稿用 LaTeX スタイルファイル」はインタラクショナルシンポジウムの Web ページからダウンロードできる.

### 3. 留意すべき点

インタラクティブ発表用およびポスター発表用原稿を作成する際に払うべき留意点を以下に示す.

- ページ数の制約に注意して頂きたい. ページ数は刷り上がりで 2 ページである.
- インタラクティブ発表用原稿からは, 和文概要と

英文概要を除く必要がある. これは原稿用ソースファイルから abstract 環境および eabstract 環境をコメントアウトすれば良い. ポスター発表用原稿もこれに準じる.

- コマンドや書式の詳細は一般講演用のサンプルソース (IntSample.tex) を参照されたい.

謝辞 本ガイドのオリジナルは情報処理学会論文誌投稿マニュアル (<http://www.ipjs.or.jp/08editt/journal/shippitsu/wabun.html>) である.

### 参 考 文 献

- 1) Lamport, L.: *A Document Preparation System LaTeX User's Guide & Reference Manual*, Addison Wesley, Reading, Massachusetts (1986). (Cooke, E., et al. 訳: 文書処理システム LaTeX, アスキー出版局 (1990)).
- 2) 伊藤和人: LaTeX トータルガイド, 秀和システムトレーディング (1991).
- 3) 桜井貴文: 直観主義論理と型理論, 情報処理, Vol.30, No.6, pp.626-634 (1989).
- 4) 野口健一郎, 大谷 真: OSI の実現とその課題, 情報処理, Vol.31, No.9, pp.1235-1244 (1990).
- 5) Itoh, S. and Goto, N.: An Adaptive Noiseless Coding for Sources with Big Alphabet Size, *Trans. IEICE*, Vol. E74, No. 9, pp. 2495-2503 (1991).
- 6) 田中正次, 村松 茂, 山下 茂: 9 段数 7 次陽的 Runge-Kutta 法の最適化について, 情報処理学会論文誌, Vol.33, No.12, pp.1512-1526 (1992).
- 7) Abrahamson, K., Dadoun, N., Kirkpatrick, D.G. and Przytycka, T.: A Simple Parallel Tree Contraction Algorithm, *J. Algorithms*, Vol.10, No.2, pp.287-302 (1989).

<sup>†</sup> 筑波大学コンピュータサイエンス専攻  
Department of Computer Science, University of Tsukuba

<sup>††</sup> 関西学院大学理工学部  
School of Science and Technology, Kwansei Gakuin University  
現在, プリンストン高等研究所 (嘘です)  
Presently with Institute for Advanced Study, Princeton (just joke)

<sup>†††</sup> 京都大学情報学研究科  
Graduate School of Informatics, Kyoto University  
実際の著者は情報処理学会 論文誌編集委員会である.

- 8) 田中正次ほか：9 段数 7 次陽的 Runge-Kutta 法の次数条件式の解について，情報処理学会論文誌，Vol.33, No.12, pp.1506–1511 (1992).
- 9) Chang, C.L. and Lee, R. C.T.: *Symbolic Logic and Mechanical Theorem Proving*, Academic Press, New York (1973). (長尾真，辻井潤一訳: 計算機による定理の自動証明, 日本コンピュータ協会 (1983)).
- 10) 新世代コンピュータ技術開発機構：第五世代コンピュータプロジェクトの概要，FGCS'92 にて配布 (1992).
- 11) 情報処理学会論文誌編集委員会： $\text{\LaTeX}$  による論文作成のガイド (第 1 版) (1995). (論文著者に配布).